

鹿島台商業高校のキャリア教育について

本校は、平成19年度より3年間を見通した系統的なキャリア教育に取り組んでおります。

これまで、平成19年度からのキャリア教育の取組をもとに、平成24・25・26年度には文部科学省「東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業」の指定校として、地元企業、産業界、県立大学教授、経済産業省、ハローワーク等の行政機関と連携しながら、地域の復興を担う志と専門性を有した人材の育成を行っております。主な取り組みについては、以下の通りです。

1 全学年による「総合的な学習の時間（キャリアの時間）」の実施

学校独自教材による学習プログラムを作り、雇用問題等の現状を踏まえながら、働くことの意義、社会人としての在り方生き方等を現実的に考える機会としております。

2 事前指導及び事後指導を重視した就業体験（インターンシップ）の実施

2学年全員が地元企業を中心に3日間の就業体験を行っております。事前指導といたしまして、秘書サービス接遇関係を専門とする外部講師による実技講習会を実施するほか、就業体験で学んだことをまとめ発表するなど、事後指導を充実することにより、勤労観・職業観の育成に力を入れております。

3 キャリアカウンセリングの充実

全学年対象の二・三者面談やハローワークによるジョブサポーター面談、生徒指導サポーター・キャリアアドバイザー面談など生徒一人一人に対して、きめ細やかな対応をしております。

4 卒業後の状況調査をもとにしたキャリア教育の検証と改善の実施

全教職員及びキャリアアドバイザー等による企業訪問や電話等による聞き取り調査を実施し、卒業後4年以内の卒業生全員を対象に卒業後の状況についての実態をきめ細かく把握することにより、日頃からキャリア教育の検証及び進路指導の改善を行っております。

5 起業家教育の推進

地域の復興を担う専門人材として、専門性を高めるために、3年生対象の起業家教育を行っております。外部の専門家の指導助言を受けながら、地域の活性化に向けて与えられたミッションを解決するため、情報の収集や分析、ディスカッションなどをおして起業家的資質や能力を育てております。



あゆみ

(1) 平成19年度～平成21年度「個性かがやく高校づくり」指定校及び就業体験実施の歴史

平成19年度からの「個性かがやく高校づくり」の指定校では、「起業家マインドの育成」ということが大きな柱となっており、キャリア教育の中の一部領域である「起業家教育」にかなり特化した教育についての教育実践を行ってまいりました。また、「大崎起業家マインド育成協議会」という外部協議会を新たに設置し、現在のキャリア教育推進協議会の基礎となりました。なお、この協議会の事務局も主に商業科が担っていました。

また、「就業体験」は、平成16年度から平成25年度まで、商業科が主幹で行われてまいりました。



(2) 平成22年度～平成23年度「魅力ある県立高校づくり支援事業」指定校

平成22年度からは、平成21年度までの3年間の起業家教育に特化した「個性かがやく高校づくり」指定校の研究をさらに発展いたしました。事業内容は、「大崎起業家マインド育成協議会」を「キャリア教育推進協議会」として継続運営していくとともに、起業家教育に特化したものから、週1時間の学校設定科目であるキャリアの時間「OT (OurTime)」の導入や企業見学等の進路指導についての内容にも踏み込んでいる点が大きな特徴となっております。指定校の事務局は新たに進路指導部に任されました。しかし、平成21年度までの起業家教育に特化した事業内容から発展したこともあり、起業家教育とキャリア教育との文言が混在して述べられており、事業内容についても一度整理する必要性が生じてまいりました。また、当時就職率の低迷や卒業後の離職率の高さも大きな本校の課題としており、進路指導を中心としたキャリア教育の根本的な見直しと立て直しが迫られており、起業家教育に特化した内容では課題に対応することがかなり難しく、厳しい現状が浮き彫りとなっております。



(3) 平成24年度～平成26年度「東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業」指定校

平成24年度において、震災復興を担う人材育成のための「東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業」の指定校を受けることができました。初年度である平成24年度では、過去5年間の指定校としての事業内容をバランスよく取り入れ、さらには教員研修（県外への視察）を充実させたことが特徴でした。事業の申請は商業科で行いましたが、キャリア教育推進協議会等のキャリア教育はそのまま継続実施し、事務局は進路指導部が引き続き担当することとなりました。

平成25・26年度については、申請は事務局を担当する進路指導部が行いました。内容は、キャリア教育を前面に出した点が大きな特徴でした。特に、キャリア教育の中において、特に進路指導の充実にかかなり力を入れることとし、教育内容の徹底的な見直しと根本的な立て直しを図るものいたしました。

近年の社会構造の変化により、特に高等学校卒業後の雇用環境の多様化がすすんでいる中で、キャリア教育やそれに関連した定義や在り方について、事務局担当で資料の確認を行いました。キャリア教育の中核は進路指導であり、起業家教育はキャリア教育の一部であるということをきちんと明確化いたしました。



現状について

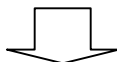
現在は、平成24年度からの「東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業」として引き続き3年間にわたり進めることができました。

現在は、外部協議会として「キャリア教育推進協議会」により継続運営し、1・2・3年「総合的な学習の時間」(1単位)(学校裁量の時間「OT」を継承)などの進路指導を中心としていながら、3年生学校設定科目「地域ビジネスプランニング」(2単位)などによる起業家教育も一層充実させていき、生徒の望ましい勤労観・職業観を育む「キャリア教育」を推進しております。

なお、昨年度まで行ってきた2年生「課題研究」(3単位のうち1単位)の就業体験の事前・事後指導の時間につきましては、3年間の系統的なキャリア教育の推進の点や、今年度から「課題研究」が1単位減(3単位から2単位に減となる)となる関係もあり、就業体験の事前・事後指導は進路指導部が担当いたしました。

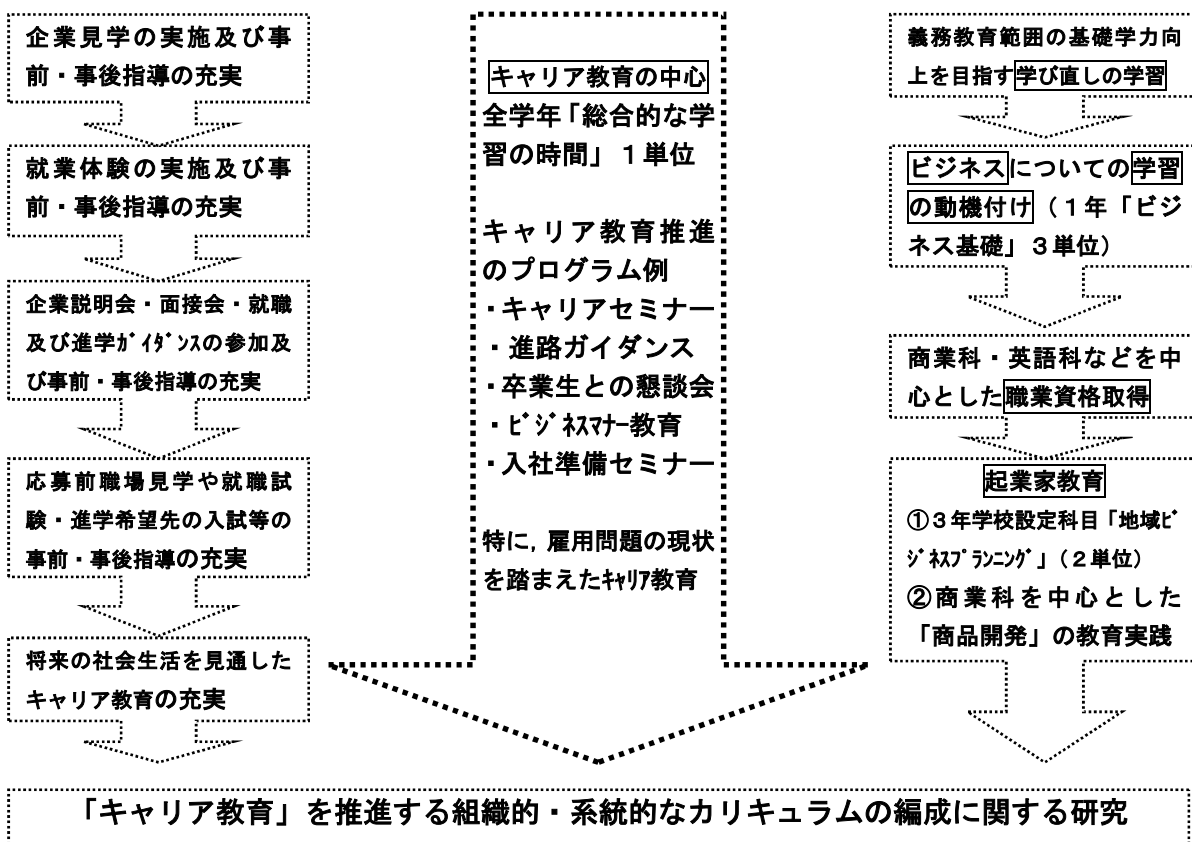
研究のねらい

- 1 「キャリア教育」を推進する組織的・系統的なカリキュラムの編成
- 2 「進路指導」を中心に「起業家教育(アントレプレナーシップ・商品開発)」等も系統化された学習体制の確立



生徒の望ましい勤労観・職業観を育む「キャリア教育」の推進

「キャリア教育」を実践する主な内容及び科目等について



鹿島台商業高校のめざす「キャリア教育」の全体像（「平成26年度 志教育全体計画」に基づき作成）

学校教育目標

人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民を育成する。

1. 幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操と道徳心を培い、健やかな身体を養う。
2. 個人の価値を尊重し、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主自律の精神と勤労を重んずる態度を養う。
3. 商業に関する基礎的、専門的な知識と技能を身に付け、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。

校訓 努力以って道を拓き 誠実以って衆に奉ず

育てたい生徒像

- ・ 基本的な生活習慣が身につけている生徒
- ・ 家庭学習習慣を身につけ、努力ができる生徒
- ・ 授業に意欲的・積極的に取り組む生徒
- ・ のぞましい勤労観と職業観を持った生徒
- ・ 検定取得に努力し、3級に合格できる生徒

キャリア教育指導目標

自信と誇りを持たせ、目標に向かって充実した学校生活を送らせる
自己理解を深めさせ、現実感のある進路選択の知識と能力を育成する

今年度の重点指導目標

- 【人と「かかわる」】
- ・ ホームルーム活動を通じて、よりよい人間関係を築く力や社会性を養う。
 - ・ 起業家教育を推進し、地域の人との交流を通じて、自己理解や他者理解を深化させる。
- 【よりよい生き方を「もとめる」】
- ・ 系統的なキャリア教育に取り組み、社会に役立つ人間としての在り方を追求させる。
 - ・ 基礎学力の定着をはかり、学校で学ぶ知識と社会と職業との関連を実感させる。
- 【社会での役割を「はたす」】
- ・ 学校行事に積極的にかかわり、組織の中での自分の果たすべき役割を認識させる。
 - ・ 部活動に活発に取り組み、集団の中で自分の役割を果たすことで自己有用感を高める。

各学年の指導目標（主な活動、指導内容）

1 学年	2 学年	3 学年
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣を身につけさせる。 ・ 早期に高校生活に順応させる。 ・ 自己分析を土台にして将来を考えさせ、調べ方を学ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業後の自分を考えさせ、具体的な行動に移らせる。 ・ 勤労観、職業観を深めさせ、就業体験を通して理解させる。 ・ 進路実現の準備を開始させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路目標を具体的に進め、実現に向けて行動させる。 ・ 将来の人生を踏まえ、高校生活ですべき事柄を理解させる。 ・ 適正な職業選択を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育オリエンテーション ・ 基礎力診断テスト ・ 進路ガイダンス ・ 職業探索学習 ・ キャリアセミナー ・ 企業見学 ・ 卒業生との懇談会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎力診断テスト ・ 進路ガイダンス ・ 就業体験 ・ 就職ガイダンス ・ キャリアセミナー ・ ビジネスマナー講習会 ・ 卒業生との懇談会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎力診断テスト ・ 進路ガイダンス ・ 職場見学、オープンキャンパス ・ 模擬面接指導・合格体験記作成 ・ キャリアセミナー ・ キャリア講話（労働法等）

各教科や資格取得	特別活動	「総合的な学習の時間」・校外学習	その他の活動
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての教科で興味、関心をさらに高め、学習意欲の向上をはかる。 ・ 商業科目での資格取得を重視した指導の実施 ・ 習熟度別、ITの実施で基礎学力の定着をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームルーム活動を計画的に実施し、クラス内での人間関係形成をはかる。 ・ 生徒会活動を活性化させ、自主的行動による行事を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「総合的な学習の時間」を計画的に実施し、ワークシートや各種資料を有効的に活用する。 ・ 就業体験を重視し、事前、事後指導を重点化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「キャリア教育推進協議会」の運営 ・ 中学生1日体験入学時の生徒による学校紹介と案内

指導上の留意事項

生徒のコミュニケーション能力の育成がキャリア形成に有効であるため、すべての指導で重要視する。

エ 平成27年度における主な研究活動計画

- ① 全学年対象の「総合的な学習の時間」によるキャリア教育（自作教材について一層の充実を目指す）
- ② 外部との連携に一層力を入れ、外部機関や人材の積極的活用の促進
- ③ 宮城県教育庁高校教育課キャリア教育班など教育行政機関との密接な連携
- ④ 宮城労働局・古川公共職業安定所をはじめとした各地のハローワーク等とのさらなる密接な連携、特に、本校在籍生徒の居住地の約7割を占める仙塩地区にある仙台・塩釜ハローワークとの密接な連携の重視
- ⑤ 中小企業家同友会等との連携を含めた、各企業等の事業所との密接な連携等を通じて、昨今社会問題となっている若年者の離職問題についての対策の実施
 - ・離職問題に対応するためのデータ等の情報収集の促進
 - ・昨年度に引き続き、卒業後4年以内の卒業生を対象とした就職先の定着状況や離職状況について、事業所や卒業生に対し、対面及び電話による聞き取り調査の実施し、課題解決のため実態の把握に努める。
 - ・全学年実施の「総合的な学習の時間」における労働問題に関する教育の充実
- ⑥ 進学した卒業生への追跡調査等により、専門学校等の進学先の実態を把握。データ等の情報収集の促進により、今後のキャリア教育・進路指導に生かす。
- ⑦ 「就業体験（インターンシップ）」の指導の在り方について、キャリア教育の面から指導体制等の強化
- ⑧ 全学年によるキャリアセミナー（特定非営利活動法人ハーベスト様）の実施
- ⑨ ビジネスマナー教育についての強化・改善。特に、秘書サービス接遇関係の指導方法の積極的な導入
- ⑩ 将来生きていくための教養（特に基礎学力）向上のための調査研究
- ⑪ 本校のキャリア教育実践の原点である起業家教育について一層の充実を図る。
 - ・オリジナル教材の活用「起業家教育 課題解決プログラム（KEP 鹿島台商業高校アントレプレナーシップ プログラム）」（(株)デュナミス監修）
 - ・学校設定科目「地域ビジネスプランニング（2単位）」実施にともなう教育内容の充実による、社会人基礎力養成の養成
 - ・「課題解決型学習における学生チューターの学習支援」による宮城大学との連携
 - ・商業科を中心とした「商品開発」の教育実践
- ⑫ 学習成果発表会の実施
- ⑬ ホームページやマスコミ・雑誌等による本校のキャリア教育の取り組みの積極的な発信
- ⑭ 学校経営や学校マネジメントも視野に入れたキャリア教育推進協議会の運営